

授業概要

英語科教育法Ⅱでの既習事項を土台にして、指導案を作成し、模擬授業を行いながら理論と実践の接点を見出していくことが中心となる。日英語を問わず、関連の論文も読む。原則的に授業は英語で行うため、そのための家庭学習が必須となる。しかし文献と課題を指定するので、それらで準備してから受講すれば心配には及ばない。英語のプロを目指すのであるから、人の何倍も学ぶことは当たり前と考えている。個別に丁寧に指導を行う。

授業計画

|      |                              |
|------|------------------------------|
| 第1回  | 英語教育と英語教育学について               |
| 第2回  | 英語の国際化と日本の英語教育               |
| 第3回  | 学習指導要領について（中学校）              |
| 第4回  | 学習指導要領について（高等学校）             |
| 第5回  | 学習者への動機付けについて                |
| 第6回  | 教室英語の実践法とその工夫                |
| 第7回  | アクション・リサーチ                   |
| 第8回  | 英語教授法（口頭教授法）                 |
| 第9回  | 英語教授法（認知主義教授法）               |
| 第10回 | 英語教授法（コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング） |
| 第11回 | 第二言語習得と英語教育（第二言語習得と言語観）      |
| 第12回 | 第二言語習得と英語教育（誤り分析）            |
| 第13回 | 第二言語習得と英語教育（中間言語）            |
| 第14回 | コミュニケーション能力の育成（ストラテジー）       |
| 第15回 | コミュニケーション能力の育成（特徴と分析）        |
| 第16回 | 定期試験                         |

到達目標

中高英語教員免許取得のために必要な実力の養成。英語教員には必須とされる素養がある。それは生徒の成長を心から願い、支援する教育者としての姿勢と、英語の専門家としての実力である。しかしこれらだけでは英語教員としては不十分である。本講座では、英語教育に関する論文を読み、模擬授業を通して実践的な力をつけることを到達目標とする

履修上の注意

授業は原則として英語のみで行いたいと思います。NHK のラジオ講座を教材の1つとして使用します（選定番組は受講者と相談）ので、これも活用して、毎日英語に触れる心構えを持つことが最低条件です。辞書は必携です。英語の勉強も含めれば、毎日学習するよう努力して下さい。これを楽しめることが必須条件です。教職を志すからには当然ですが、遅刻は厳禁。

予習復習

毎時間 reading assignment を出しますので、必ず予習のうえ、授業に臨んで下さい。予習を前提として授業を行います。授業時には復習のために、self-research を課し、評価の一部（下欄参照）に組み入れます。

評価方法

mid- & final test（50%）、presentation（20%）、quiz（10%）、report（10%）、及び self-research assignment を中心に予復習の有無（10%）を勘案して総合的に評価。

テキスト

『改定版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店）  
A New Approach to Understanding English Grammar (Asahi Press)